

県産アブラツノザメ軟骨で弘大など

抗がん効果を証明



新薬や商品開発に期待

本県で水揚げ量が多いアブラツノザメの頭部軟骨粉末に抗腫瘍効果があることが弘前大学と青森市の水産加工会社田向商店の共同研究で明らかになった。22日の会見で発表し、弘大の加藤陽治副学長は「研究成果を地元から発信できることは非常にうれしい。さらに研究を続けていく」と期待を寄せた。

サメ資源は多くのサメプリメントや化粧品に利用されているが、主流はヨシキリサメ。これまで、県産のアブラツノザメを他種のサメの代替資源として活用できないかと関係者が期待されていた。

田向商店では県産アブラツノザメ軟骨のサプリメントを2009年に商品化。その後、販路拡大、新商品開発
.....
会場で説明する野坂弘大講師(右から2番目)ら

につなげようと、弘大医学部保健学科と09年度「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」を活用し共同研究を開始した。

実証実験では、本来廃棄されるアブラツノザメの頭部軟骨の粉末が、大腸がんやすい臓がんなどの腫瘍進展を手助けする酵素のうち、2種類の酵素の活性を阻害することが証明された。

会場で弘大の野坂大講師は抗がん効果が証明されたことについて

「県産の素材を使った新たな製薬や新商品の開発につなげられるのでは」と期待を寄せた。
田向商店と同保健学科は弘大の研究費助成制度「GOGOファンD」を活用し、研究を進めている。